

## 第3学年D組 国語科授業案

日時 平成27年6月15日 第2校時  
場所 3D 教室  
授業者 熊谷 等

### 1 単元 私の“本”心を伝えよう（文化の可能性を語り合う）

#### 2 単元の構想

##### (1) 本単元で目ざす子どもの姿

ビブリオバトルと出会った子どもは、お気に入りの本を準備してビブリオバトルに挑戦する。繰り返し行う中で、聞き手の心をつかむには、思いを発信する技能を磨くことに加え、本に対する自らの思いを整理して、聞き手に語る事が大切であると気づく。発信の技能を高め、受信する側への配慮を意識できるようになった子どもは、幅広く本に親しむとともに、思いを適切に語っていくようになる。

##### (2) 本単元で伸ばしたい力

本単元では、ビブリオバトルを行い、自分の紹介しようとしている本のもつよさを伝えるための工夫を考える中で、練り上げる力を高めていきたい。あわせて、補助資料や発表原稿を使わずに、語りによって自らの思いを伝えるために、適切な言葉や方法を考える中で、表現する力を育んでいきたい。また、プレゼンを聞く中で、本の内容や、語り手の伝えたい思いを適切に捉える力を育んでいきたい。ビブリオバトルをとおして、プレゼンテーションに大切なスピーチの技能を高めることに加え、相手や場面の状況についても意識したコミュニケーションをとることができるようになることを考える。

##### (3) はたらきかけと「学んだこと」を行動につなげる子どもの姿

単元の導入では、ビブリオバトルの映像を二つ提示する。視聴した感想を語り合い、ルールを確認する中で、子どもは補助資料を用いない語りによるプレゼンテーションを自分たちも行ってみたいと考えるだろう。そして、紹介したい本を持ち寄り、4～5名のグループをつくり、実際にビブリオバトルに取り組んでいく。子どもは、本の紹介をとおして仲間の新たな一面を知るとともに、今まで読んだことのないジャンルの本のおもしろさを感じ取るだろう。また、5分間自分の思いを語り続けることの難しさや思いを伝え切れないうらみも感じるだろう。

子どもは、思いを伝え、本によさを共有したいと考え、相手を変えながら繰り返しビブリオバトルを行っていく。そこで、発信の様子を録画し、後の振り返りでそれを視聴するよう促す。子どもは、自らの語りを振り返り、仲間の姿と比較しながら、自分に足りない点を見いだしていく。多くの子どもは、仲間のプレゼンを見たり、自分のプレゼンを振り返ったりする中で、本によさを伝えるためには、あらすじや内容に加え、その本が自分にどのような影響を与えているかを伝えることが大切だと感じ取るだろう。また、聞き手の反応を見ながら話す内容を柔軟に変更することも、効果的であると考えるはずである。更に、掲示物を活用し、互いの紹介する本を読み合った感想を伝え合うようにする。子どもは本に対する考え方の違いを知るとともに、自分のプレゼンテーションのよさや足りなさを感じ取ることができるだろう。5分間で何を語るべきかを改めて考え、その構成を見直し、修正を加えていく。

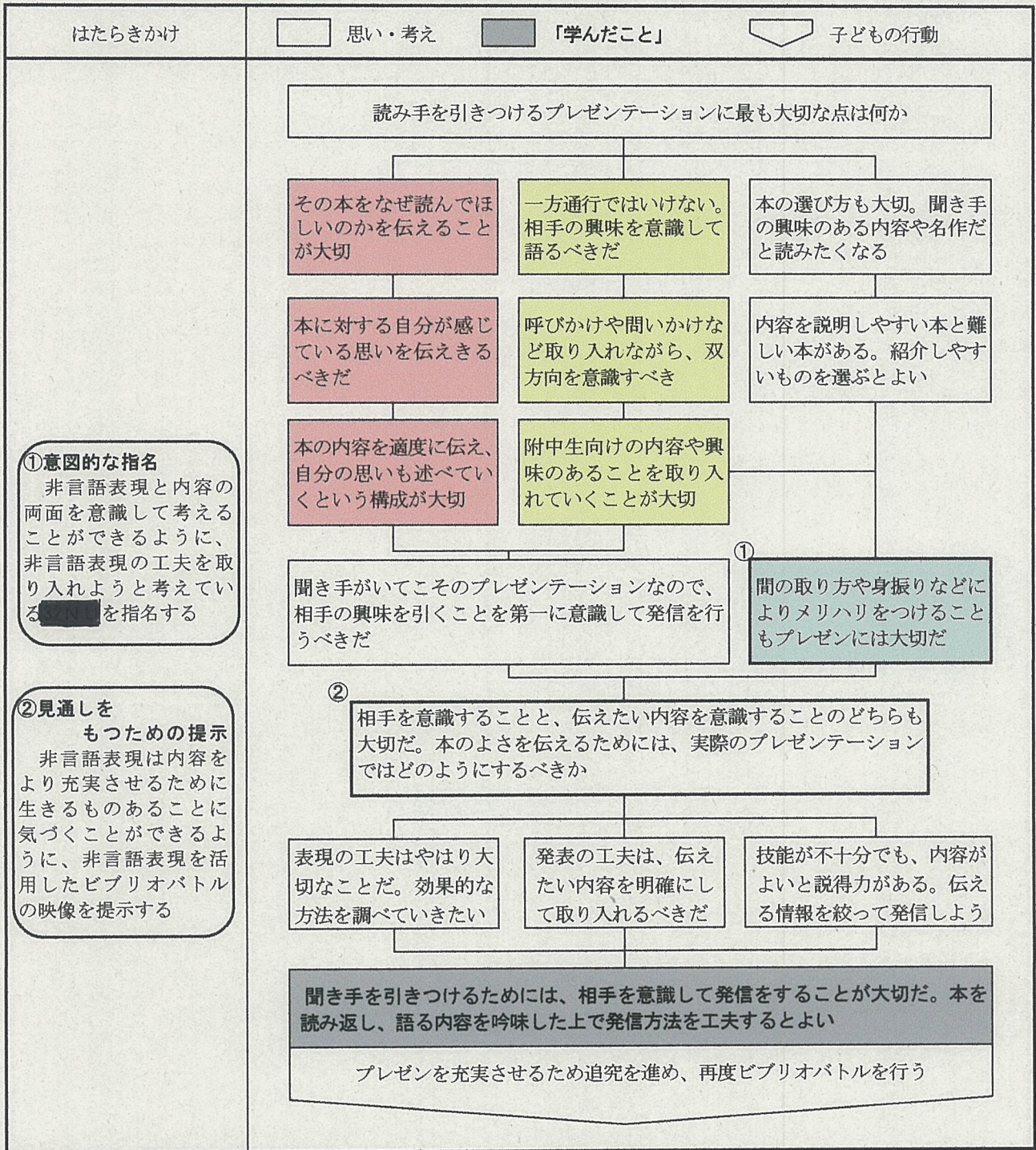
内容を充実させることの大切さを再認識したところで、非言語表現の工夫を取り入れている子どもの考えを取り上げ、実際に活用している映像を提示する。子どもは、補助動作やパラランゲージの工夫により発信にメリハリをつけるなど、語りを充実させる方策を考えながらプレゼンの準備を行っていく。子どもは、追究してきたことを生かして再度、学級チャンプ本を決めようとする。ここでは公開ビブリオバトルを行い、なぜその本がチャンプ本にふさわしいと考えるのかについて聴衆も交えて意見交流を行う。子どもは、どのようなプレゼンテーションが聞く人を引きつけることができるのかについて意見を交わす。子どもは、本についての情報を伝えるだけでなく、聞き手に当事者意識をもたせるための工夫を考えることが大切であると再確認するだろう。

プレゼンテーションについて追究を進めた子どもは、多くの聴衆に向けて思いを語りたいと願うだろう。そこで、3年生の各学級で選ばれたチャンプ本を持ち寄り、附中ビブリオバトル大会を開催する。また、選ばれたチャンプ本を紹介するコーナーを図書室に設置するよう図書委員会に提案し、学習の成果を全校に還元できるようにする。プレゼンテーションの楽しさと意義を感じ取った子どもは、授業や生活の中で、聞き手を意識した発信をしていくようになる。

#### 4 本時の構想 (8/16)

子どもは、前時までにどのようなプレゼンテーションが相手を引きつけることができるのかについて、追究を行ってきた。聞き手の興味を抱かせるような話し方の工夫、本の内容を端的に伝えるための構成など、5分間のプレゼンテーションを充実させるための方策を考えてきた。

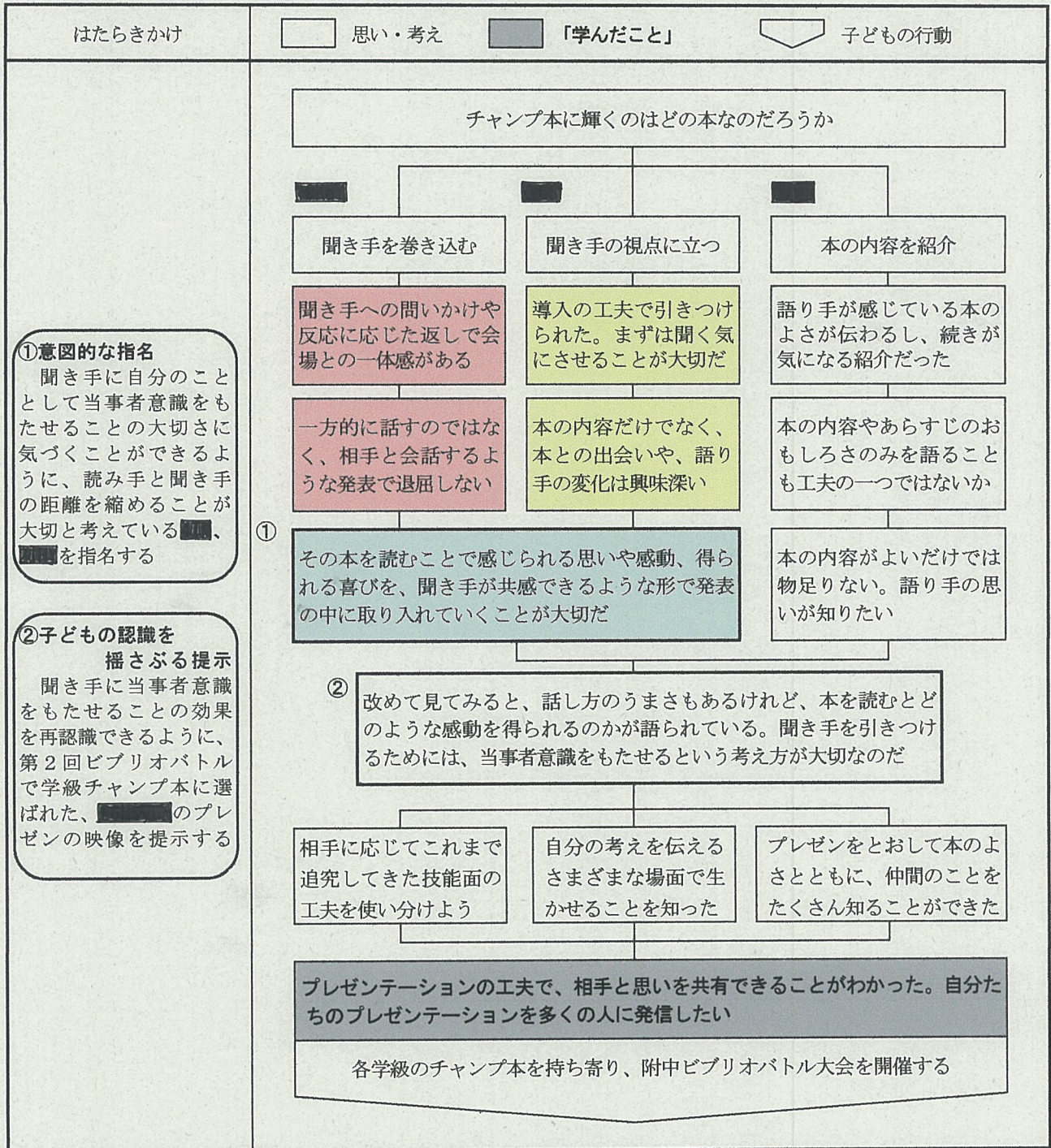
本時では、追究してきた内容について意見交流を行う。まずは、構成を工夫し、伝えたいことをまとめておくことが最も大切であると考えている子どもが意見を述べる。展開を明かさないうちに内容を紹介するなど具体的な方策を示すだろう。そこに聞き手の興味を踏まえ、呼びかけや問いかけを入れ、引き込むことも大切と考えている子どもが関わってくる。ここで、非言語表現による工夫が大切と考えている黒丸を指名する。本に描かれている内容のよさを伝えることはもちろん、動作や呼びかけで読み手を引きつけることも大切であるという考えを述べるだろう。非言語表現と内容面の両面に目が向いたところで、非言語表現を生かした発信の映像を提示する。子どもは、伝えるべき内容を吟味した上で非言語表現を取り入れることが大切であると気づき、自らのプレゼンを向上させるために分析、練習をしようと考えていく。



#### 4 本時の構想 (13/16)

子どもは、前時まで学級チャンプ本を決める第3回ビブリオバトル準決勝を公開で行い、決勝進出本3冊を決めた。子どもは、決勝に進出した■■■と■■■、■■■の準決勝でのプレゼンを振り返り、聞き手を引きつけるプレゼンに大切なことを考え、どの本がチャンプ本に選ばれるのかを予想してきた。

本時ではビブリオバトル決勝戦を公開で行う。決勝進出者は、プレゼン後にチャンプ本を選び、理由とともに発表する。その後、聴衆も交えた意見交流を行う。まず、聞き手の反応を意識したインパクトのある■■■のプレゼンのよさについて、具体的な言葉や場面を示しながら、意見が出される。そこに、本自体のおもしろさを伝えることが大切と考えている子どもが、対立する立場で■■■のプレゼンのよさを述べるだろう。■■■のプレゼンに対しては、5分間の構成や、読み手に共感させる紹介の工夫などがよさとして挙げられるはずである。ここで、聞き手に自分のこととして考えさせることが大切であるという意見をもつ■■■、■■■を指名する。その後、第2回ビブリオバトルで学級チャンプ本に選ばれたプレゼンの映像を提示する。子どもは、聞き手を引きつけるプレゼンには、聞き手に自分のこととして考えさせる、すなわち当事者意識をもたせるという考え方が大切であると再認識するだろう。プレゼンのよさを改めて感じた子どもは、多くの聴衆に向けて本の紹介をしようと動き出す。



主なはたらきかけ	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">□</span> 思い・考え <span style="background-color: #cccccc; border: 1px solid black; padding: 2px;">■</span> 「学んだこと」 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">◡</span> 子どもの行動	国語科で重視する力
<p>○子どもの認識を揺さぶる提示 プレゼンテーションに対する興味、関心をもつこと、がビブリオバトルの映像を二つの紹介した本をどう読みたいかを問う</p>	<p>修学旅行では、<i>Lifework</i> の追究を専門家に発信してきた</p> <p>図書室に新しい本がたくさんあった。いろいろ読んでみたい</p> <p style="text-align: center;">ビブリオバトルっておもしろそうだ。やってみたい 1～4時</p> <p>何を伝えるのか決めておかなければ5分間話すのは難しい</p> <p>補助資料や発表原稿などを準備しないのは手軽だ</p> <p>チャンプ本を決めるのがわくわくする。本のよさを伝えたい</p>	<p>☆捉える力 ・語り手がどのような思いを伝えようとしているのかを意識して、適切に聞き取る</p>
<p>○見通しをもつための提示 プレゼンテーションに大切な点を意識すること、各の紹介の様子を振り返る時間を確保する</p>	<p>やってみると、意外と思いを表し切れない。どうすれば、聞き手を引きつけるプレゼンテーションができるのだろうか</p> <p style="text-align: center;">語りによるプレゼンテーションに大切なことを考える 5～8時</p> <p>原稿は大切だが、準備したものを読むだけの発表は退屈だ</p> <p>本を読み返し、伝えたい思いを整理し語る内容を吟味しよう</p> <p>チャンプ本の動画をもっと見たい。自分と何が違うのか</p>	<p>☆練り上げる力 ・補助資料を用いず5分間の語りを行う上で大切な以下の点を意識して語る &lt;語る内容&gt; ①伝えたい思い ②本の内容 ③自分の体験 ④具体例、比喻 ⑤本に関わる情報 &lt;構成&gt; ①1-3-1の時間配分 ②導入の工夫 ③展開は3項目 ④説明の順序 ⑤まとめの主張</p>
<p>○見通しをもつための提示 非言語表現を工夫するよう、方振りや間を振る映像を提示</p>	<p>強調するため、間の取り方や速さ、声の大きさを工夫しよう</p> <p>1-3-1の構成や、説明の順序も意識して5分間を使おう</p> <p>聞き手への呼びかけや問いかけなど意識して語ろう</p> <p>聞き手を引きつけるには相手を意識して発信することが大切だ。本を読み返し、語る内容を吟味した上で発信方法を工夫するとよい</p> <p style="text-align: center;">聞き手を引きつける工夫を追究し、再度バトルを行う 9～13時 (本時13)</p>	<p>&lt;表現方法&gt; ①速さ、声量 ②目線、姿勢 ③間、抑揚 ④聞き手への問い ⑤ジェスチャー</p>
<p>○仲間の考えを示す 気づきや問題、互いの紹介内容を共有し、追いつき、追いつくための工夫を促す</p>	<p>非言語表現を工夫することで、思いがより一層伝わるはずだ</p> <p>本の内容に加え、本との出会いや本から得たことを伝えよう</p> <p>最初で引きつけられるように導入にインパクトをもたせたい</p> <p>項目を立てておき、相手の反応に合わせてアレンジしよう</p> <p>追究を生かして、もう一度学級チャンプ本を決めよう</p> <p>聞き手と会話するような考え方でプレゼンに取り組もう</p>	<p>☆表現する力 ・資料に拠らず思いを伝えることができるように、言葉を選び、構成を工夫し、相手を意識して、伝えたい思いを語る</p>
<p>○意図的な指名 聞き手を引きつけるためのポイントを、聞き手が意識できるように工夫を上げる</p>	<p>プレゼンテーションの工夫で、相手と思いを共有できることがわかった。自分たちのプレゼンテーションを多くの人に発信したい</p> <p style="text-align: center;">各学級のチャンプ本を持ち寄り、附中ビブリオバトル大会を開催する 14～16時</p> <p>きちんと言葉にして思いを伝えることで、互いの理解が深まる</p> <p>プレゼンに大切な、内容、構成、表現を意識して発信しよう</p> <p>普段は読まない多くのジャンルの本を知ることができた</p> <p>相手や場面に応じた表現や内容の配慮が、プレゼンテーションには不可欠な要素だ。伝えたい思いを表現するための言葉を選び、構成を意識して語ることで、思いを共有することができるのだ</p> <p style="text-align: center;">場面や状況に応じた発信を意識していくようになる</p> <p>プレゼンを多くの場面で活用し、聞き手と思いを共有していこう</p> <p>チャンプ本はもちろん、紹介された本をどんどん読みたい</p>	